

リーディング DXスクール事業 【実践事例】

興本扇学園足立区立扇中学校(東京都)【指定校】

【取組内容①】中学2年生英語 Research and Presentation
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

本年度、扇中学校では、データを活用し、分析を行い、合理的根拠をもとに計画を立案し、実行するEBPM(Evidence Based Policy Making) の能力を育成することをテーマに、ICTを活用した授業を行った。

2年生の英語では、グループごとに自分たちが調べたいテーマを決め、Googleフォームでアンケートを作成し、答えてもらったデータをまとめ、英語でプレゼンテーションを行う活動に取り組んだ。一人一人が自分の分担に責任をもち、英語を活用する機会を増やすため、1グループ2～3人とした。生徒は、自分たちが知りたい情報を集めるにはどのような質問をすればよいのかを考えたり、回答ごとにセクションを作成したりと、工夫しながらアンケートを作成していた。また、結果をまとめる際には、スプレッドシートから必要なデータを抜き出したり、スライドの共同編集を活用したりして、担当するページの発表原稿を含めて作成した。Googleフォームやスプレッドシート等を友達と共有することで、互いを参考にしながら、必要に応じて質問し合ったり、共同編集したりするなど、自分にあった学習形態を選択する様子が見られた。

Do you like snack
26 件の回答

Kotone♡,Kanna&Aya♥

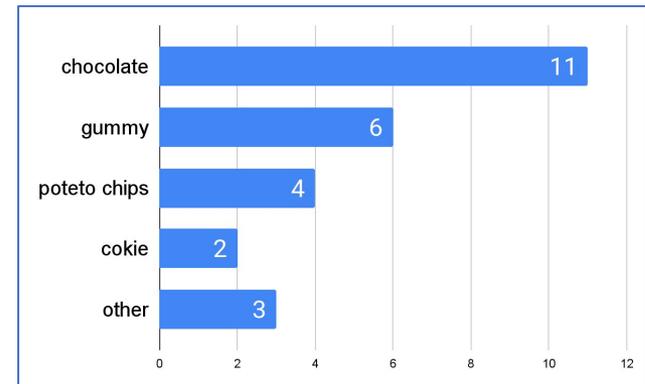
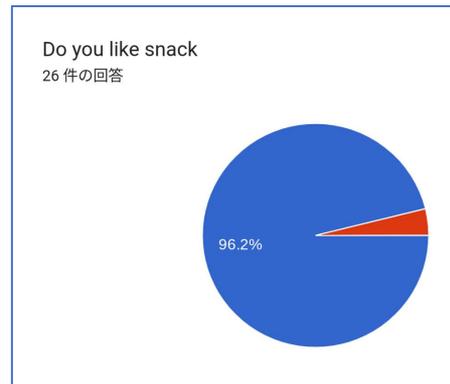
共有なし アカウントを切り替える 再送信して保存

* 必須の質問です

May I have your name please *

Renzu

Do you like snack *



成果

ICTを用いることで、見やすく伝わりやすいプレゼンテーションとなり、普段英語を苦手とする生徒も興味をもって活動に取り組むことができた。生徒はスプレッドシートを並び替えてグラフを作成する際に、どのグラフを用いるのがわかりやすいか、パーセンテージと実数のどちらを表示するのが良いかなど、聴き手を意識したデータのまとめ方を考え、必要なデータを抽出してグラフを作成することができるようになった。

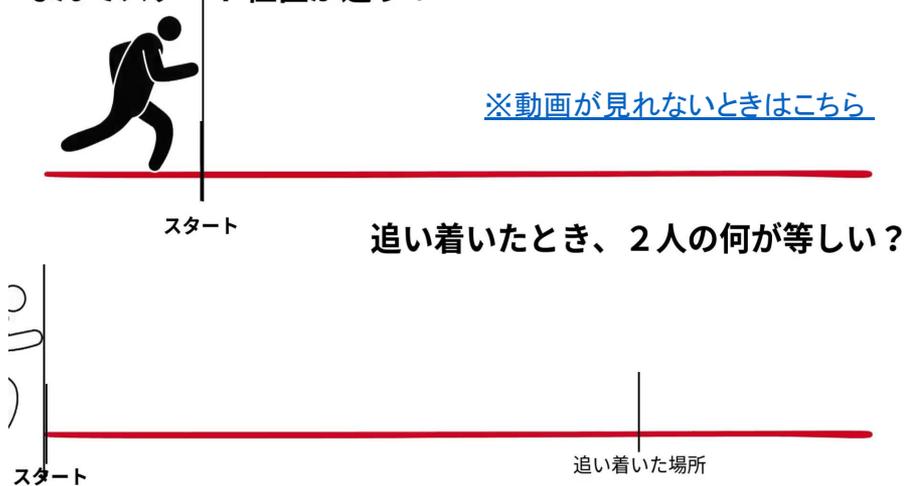
課題

調べるテーマを決める際、教科横断的な視点を取り入れることで、生徒が他教科で学んだことをさらに深めて調べたり、質問したりするようにする。アンケートの集計結果を示すだけでなく、その結果から分析すべき内容が増えることで、他者の学習状況を参照したり、協働したりして資料を作成する必要が生まれ、さらなる「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に繋がる。

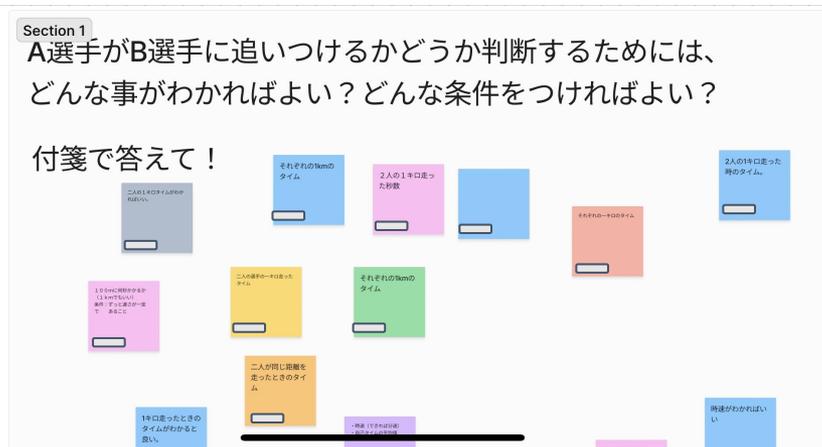
【取組内容③】中学 1年生 数学「方程式の利用」
動画教材の活用

数学科『方程式の利用』では、今まで学習してきた内容を活かして、先に走っている選手より数分遅れた選手が何分後に追いつくことができるかを、方程式を用いて求めた。条件の設定では、どのような情報があれば2人の選手を比較できるかなどを、オンラインホワイトボードの付箋機能を使って他者と共有した。また、実際に遅れた選手が追いつく場面を教師側が動画編集アプリケーションを用いて映像で用意した。そこから導けることなどもオンラインホワイトボードを用いて共有し、生徒同士で理解を深めることができた。

なんでスタート位置が違う？



方程式の利用 (きはじ) (2組)



成果

オンラインホワイトボードを用いたことで、考えを他者と共有し、自分にはなかった考え方に気付くことができた。また、映像を用いて視覚化することによって、どのようなところに等式が隠れているかをイメージしやすくなり、文章題への理解が深まった。途中式などを写真で共有することで、生徒自らが解き方や答えを確認することができた。

課題

個別学習をしている際に、つまづいたらそこで止まってしまう生徒がいる。考えを共有させるだけでなく、教室前方に集めて教員が支援しながら授業を進めるなどの工夫が必要である。
オンラインホワイトボードでは、こちらが用意したテキストや枠などを生徒も編集・削除できるので、事前にルールを決めて、定着させる必要がある。